

特別支援学校における 授業づくりのスタンダード



令和3年4月
特別支援学校授業力向上実践協議会

発刊に寄せて

学力向上に向けた取組の充実を通して学習指導法の改善を進めることで、児童生徒の確かな学力の定着を図ることを目的として、平成24年度から開始された県特別支援学校授業力向上プログラムでは、これまでに、各学校における3年に1回の授業公開及び授業研究会の実施、各学校の教員の代表を集めた授業力向上実践協議会の開催を通して、授業改善の具体策を共有し、P D C Aサイクルの機能化による授業づくりの改善や授業づくりに関するツールの整理、授業実践や授業研究等の成果と課題を踏まえ、学習指導要領の改訂に沿った共通の視点で取り組んできました。

この冊子は、各学校の実践を基に特別支援学校の授業づくりの基本的な事柄をまとめたものです。全ての障害種、様々な教育課程において共通するものを中心に授業力向上実践協議会での協議を参考にまとめました。日々の授業実践や授業改善の課題解決に向けた個人またはチームでの取組や校内研修の資料として活用してください。

最後になりますが、発刊につきまして、御協力いただいた授業力向上実践協議会をはじめとする関係の皆様に、厚く御礼申し上げます。

令和3年4月
鹿児島県教育庁
義務教育課特別支援教育室

I 授業づくりとは ……2

II 授業づくりのスタンダードとは ……3

- 「授業づくりの『Plan』,『Do』,『Check』の使い方」 ……6
- 授業づくりのチェックリスト ……7
- 「授業レベルの『Plan』～基本的な考え方」 ……8
- 「授業レベルの『Do』～基本的な考え方」 ……12
- 「授業レベルの『Check』～基本的な考え方」 ……16

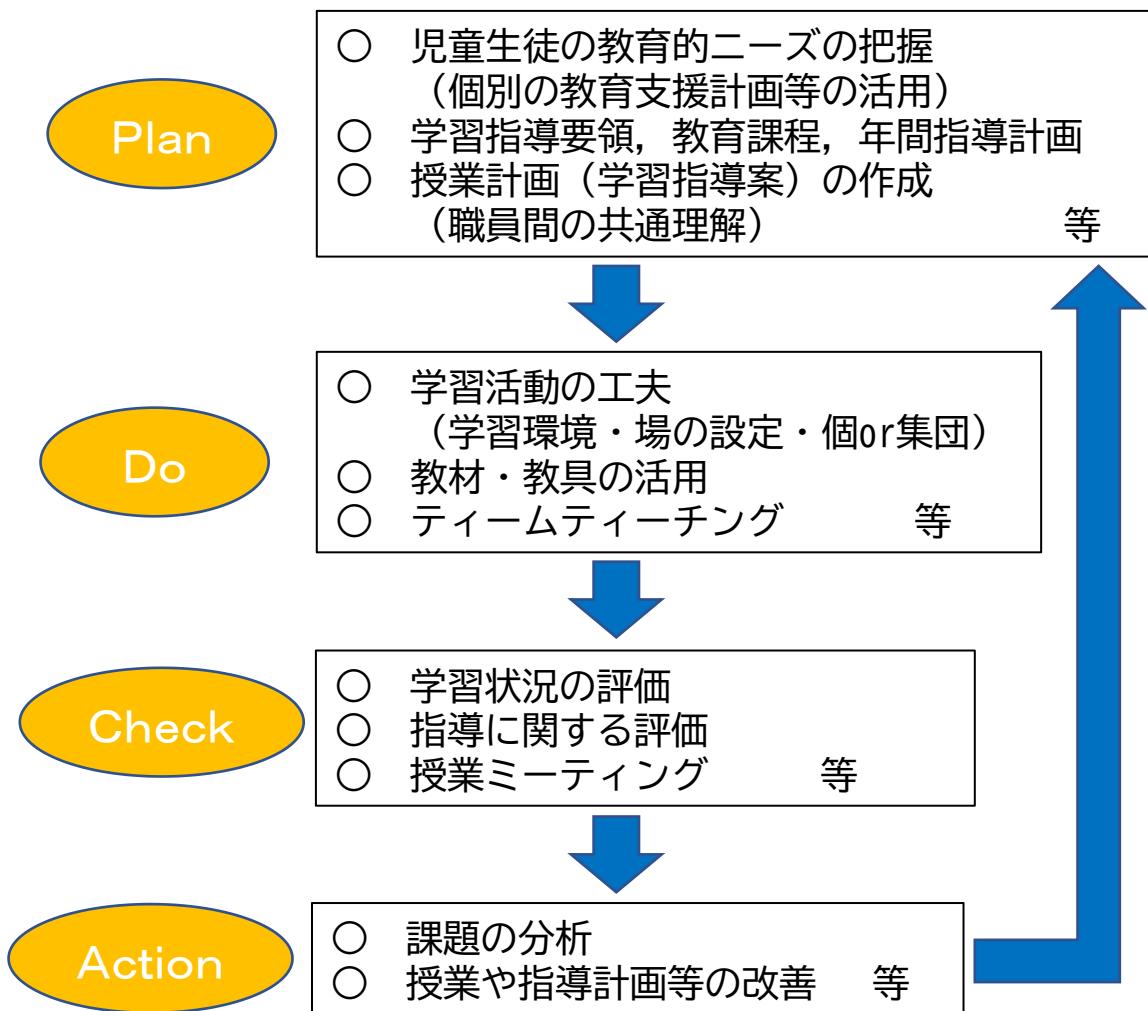
III 授業づくりの充実に向けて ……19

IV まとめ ……19

I 授業づくりとは

○ 授業づくりとは？

授業づくりは、児童生徒の実態を把握することに始まり、目標や授業者の意図を明確にした上で、どのような学習内容を、どのような教材や方法で児童生徒に指導するかを見極めて、実践し、児童生徒の学びの姿から授業を検証し、次の計画に生かすという一連の過程です。



○ 授業づくりで大切にしたいこと

学習の主体者である児童生徒一人一人が「できた、分かった」と実感できることが大切です。そのために以下の点を確認しましょう。

- ・ どのような児童生徒を育てたいか（児童生徒像）
- ・ 何を教えるか（指導目標・内容）
- ・ 何を使って教えるか（教材・教具）
- ・ どのような過程を踏まえて授業展開していくか（指導過程）
- ・ どのような方法・形態で教えるか（学習指導法・学習形態）
- ・ 授業展開に当たって留意すべきことは何か（学習指導上の留意点）

Ⅱ 授業づくりのスタンダードとは

○ 授業づくりのスタンダードについて

各特別支援学校が、これまで学校独自の研修テーマに基づき、授業づくりの改善に取り組んできたことを踏まえ、第3期授業力向上プログラムでは、各学校での授業づくりに関するツールを整理し、共通で取り組むことのできるスタンダード作りに取り組みました。

この「授業づくりのスタンダード」は、1単位時間の授業の充実を図るために各学校での授業実践及び研修を踏まえ、障害種に関わらず、授業づくりの際の参考にしていただくためにまとめたものです。



授業づくりにおけるヒントや授業研究会での共通の視点としても活用することができます。

II 授業づくりのスタンダードとは

○ 構成と各ツールについて

- 「授業づくりのチェックリスト」 P 7

「授業レベル『Plan』, 『Do』, 『Check』～基本的な考え方～」のそれぞれの視点の主なものをまとめたものです。授業計画の立案や授業担当者同士の打合せ, 実際場面, 授業研究会や担当者における授業ミーティングを行う際にどれくらい達成できているか振り返る際に活用することができます。

○ 「授業づくりの『Plan』, 『Do』, 『Check』～基本的な考え方～」 P 8～

1単位時間の充実を図るために各学校での授業実践及び研究を踏まえて, 大切にしたいことや具体的な方法についてまとめたものです。

シートは, 2種類あります。『Plan』, 『Do』, 『Check』それぞれに

- ①【各段階において大切にしたいことをまとめたもの】
- ②【具体例】の順でまとめています。

① ～基本的な考え方～ 【大切にしたいこと】

② ～基本的な考え方～ 【具体例】



II 授業づくりのスタンダードとは

② 【具体例】の内容

各項目において共通して大切にしたいこと

大切にしたいことについて具体的な方法や視点について例示

実践を通して追記したい項目等があれば記入

全体的に押さえておきたいことなど

授業づくりの「Plan」、「Do」、「Check」の使い方

授業づくりを行う上で、学習活動は、児童生徒の実態に合っているのだろうか、目標の妥当性はあるのだろうかなど、悩むことは多いのではないでしょうか。悩みや確認したいことがあるときに活用してください。

Plan

授業構想
の明確化

Do

授業の実際

Check

評価・改善

こんなとき

ここをチェック

実態に合った
目標設定はどう
したらいい？

評価の視点や
方法は具体的に
どうする？

学ぶ意欲を高
めるための導入
のあり方とは？

児童生徒の学
び合いを充実さ
せるには？

授業研究や授
業後のミーティ
ングは、どうし
ている？

「Plan」 (p10)
2 一人一人の実態に即した具
体的な目標設定
【精度の高い目標設定】

「Plan」 (p11)
3 学習活動と評価の機会の設定
【評価の視点・方法】

「Do」 (p13)
1 学ぶ必然性を感じ、興味・関心
が高まる導入
【学ぶ必然性】
【見通し】

「Do」 (p14)
2 子供が主役となる学びの展開
【子供が主役の学び】
【学びを支える】

「Check」 (p18)
2 次時につなげる教師の指導・
支援の評価
【教材・教具】
【学習内容及び教師の指導・支
援】
【次時につなげる視点】

授業づくりのチェックリスト

1単位時間の授業の充実を図るための

Plan

- ねらいの明確化（実態把握と身に付けたい力）
- 学習過程の設定（子供の主体的な学習を促す指導・支援の工夫）
- 評価の視点・方法の具体化

Do

- 興味・関心が高まり、見通しのもてる導入
- 目標の妥当性（全体・個人）
- 子供が主体的に取り組める学習活動の設定
- 目標達成のための具体的な手立て【活動（質・量、教材・教具、グループ編制、教師の関わり等】
- めあてと対応した多様な評価やまとめの設定
- 次時の学習内容につなげる終末

Check

- 子供が学びを実感でき、取り組みやすい評価方法の工夫（自己評価・他者評価）
- 観点別評価（三つの柱に基づく）
- 学習内容及び教師の指導・支援の評価
- 教材・教具の有効性や改善策
- 授業後の振り返り・共通理解



具体的な内容については、次ページからの
「授業レベルの『Plan』, 『Do』, 『Check』
～基本的な考え方～」で確認しましょう。

授業レベルの「Plan」～基本的な考え方～

1 単位時間の授業の充実を図るために

(大切にしたいこと)

1 多面的・多角的な実態把握

学び・生活の履歴

これまでの学習とのつながりや既知の内容の確認

まとめにつながるめあての提示（全体及び個人のめあて）

客観的な検査

学習活動の流れや学習方法の提示

教材・教具の提示で学習への見通しと興味・関心を喚起

2 一人一人の実態に即した具体的な目標設定

子供が主役の学び

個に応じた学習活動の設定と充実

子供同士で学び合う学習活動の設定と充実

学びを支える

失敗やつまずきに対応する手立てと臨機応変な対応

自己選択・自己決定の場や機会の設定

3 学んだことを実感し、次の課題に向かうまとめ（終末）

学んだことを実感

個や学習集団に応じた発表や称賛の場面の設定

めあてと対応した多様な評価やまとめの設定

学んだことを蓄積できる手立ての工夫（学びの履歴づくり）

つながり

次の学習への見通しをもち期待感が高められる工夫

実生活や実践意欲に結び付く動機付けやまとめの工夫

教師間の情報共有

安全面等への配慮

子供の主体的な活動を待つ姿勢

個に応じて、精選された言葉掛け

「思考」を促す発問や言葉掛け

「学び」の過程が分かる板書の工夫

授業レベルの「Plan」～基本的な考え方～ (具体例)

1 多面的・多角的な実態把握

学びの履歴

学びの履歴
と今回の学習
との系統性・
関連性

個別の教育支援
計画等を活用した
教育的ニーズの把
握（興味・関心・
生活経験など）

例えば、

- 個人ファイルの作成・活用（学びの履歴）
 - ・個別の指導計画から、同単元・題材の学びの履歴を把握
 - ・これまでの学習内容や指導目標、目標の達成度の確認
 - ・過去の定期考査を活用した苦手分野の把握
 - ・教科ごとの学習ファイルの作成・活用
- 前時までの学びの状況の確認・評価（タテの学び：系統性）
 - ・前時の学習を振り返り、本時とのつながりを確認
 - ・ワークシート、作業及び実習日誌、評価表等の蓄積
- 同時期の他教科等の学びの状況の確認（ヨコの学び：関連性）
 - ・他教科での関連する内容の指導内容の取扱いの確認（担任・教科担任との情報共有）
- 各教科等の年間指導計画やチェックリストの活用
 - ・教育課程を基に各教科等の目標や内容の確認
 - ・チェックリストの更新及び習熟度の把握、学習計画の作成

例えば、

- 個別の教育支援計画（知能検査等の結果、保護者や本人からの情報や要望の把握）
- 高等部卒業時の目指す姿を見据え、今年度取り組む課題の確認
- 個別の指導計画（実態欄、自立活動欄、教科ごとの履歴）
- 個別の指導計画、重点目標をベースに単元（題材）の個人目標の設定
- ケース会議の実施や職員間の情報共有、共通理解
- 児童生徒の興味・関心等についての共通理解
- 学部職員全員で長期目標・短期目標の確認を行い、学習活動に反映
- （自立活動を中心とした課程）教科学習の学習指導案に自立活動の年間指導計画を添付

メモ（アイデア等記入しておきましょう。）

客観性

諸検査の結果の
分析に基づいた実
態把握と指導・支
援の手立ての検討

教師間の情報
交換・情報共有

例えば、

- 諸検査（WISC, K-ABC, NRT等）結果の活用
 - ・発達の段階や障害の状態を把握
 - ・学びの特性の把握、得意不得意の確認
 - ・有効な指導・支援の手立ての検討
 - ・予め決めた学年で発達検査等を実施し、検査結果や分析を基にした指導・支援の在り方の検討
- * 各種検査
 - ・NRT, CRT, 学習定着度調査、模擬試験
 - ・WISC, K-ABC, 田中ビネーV, L Cスケール、絵画語り検査、S-M社会生活能力検査など
 - ・国語・数学・美術など教科における実態把握

例えば、

- 学習の状況や学校生活の様子を担任間、指導担当者間で情報交換・情報共有
 - ・単元・題材シートを活用した打合せ
 - ・本単元・題材計画作成時におけるねらい・指導計画・内容の確認
 - ・教科担任、担任と前担任との情報交換
 - ・教科ごとのミーティング
- 他教科等の学習の状況や学校生活の様子を、担任と指導担当者間で情報交換・情報共有
 - ・教科担当や担任との定期的な話合い
 - ・学部会や学科部会、教科部会での情報共有
 - ・児童生徒の重点目標の達成に向けた取組状況や共通理解事項の確認
 - ・朝の打合せや学部会、学年部会、グループウェアの活用

メモ（アイデア等記入しておきましょう。）

＜授業ミーティング＞「Plan」段階で検討を加えておく事項

CT・STの
役割の確認

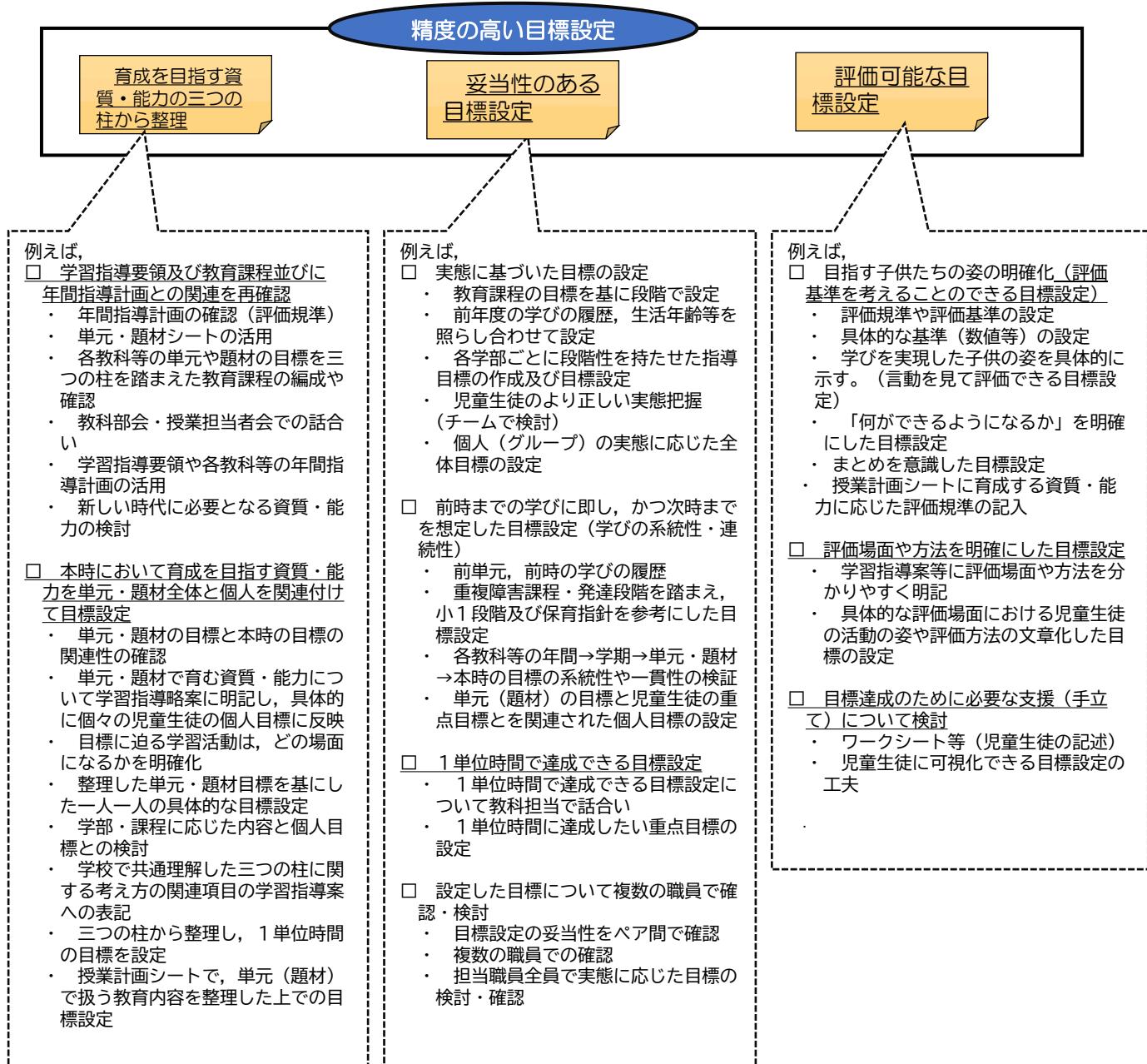
場の設定
安全面の確保

自立活動と
の関連

※ 授業ミーティングを活用して、子どもの実態及び課題や目標を共通理解し、指導の方向性の統一を！

授業レベルの「Plan」～基本的な考え方～（具体例）

2 一人一人の実態に即した具体的な目標設定



メモ（アイデア等記入しておきましょう。）



＜授業ミーティング＞「Plan」段階で検討を加えておく事項

CT・STの役割の確認

場の設定
安全面の確保

自立活動との関連

※ 授業ミーティングを活用して、子どもの実態及び課題や目標を共通理解し、指導の方向性の統一を！

授業レベルの「Plan」～基本的な考え方～（具体例）

3 学習活動と評価の機会の設定



例えば、

- 実態に応じた活動内容・量の設定
 - ・ 実態に応じた個別のワークシートの工夫
 - ・ 個別の指導計画に基づく学習内容、活動量の設定
- 教材・教具の工夫、活用場面の検討
 - ・ 「必然性のある学び」となるような教材設定や導入・展開の設定
 - ・ 個に応じた教材・教具の制作、ICTの活用
- 学習形態の検討
 - ・ 個別か集団か、習熟度別のグループ編成
- 自己選択・自己決定の場の設定
 - ・ 課題を意識しやすい目当ての提示、学習の流れの検討
 - ・ 発問と予想される回答の精選
- CT・STの役割の確認
 - ・ 効果的なT・Tの活用
 - ・ 授業シート等を活用した授業反省と次時への改善、ミーティング

例えば、

- 個人学習、ペアやグループ活動など多様な学習集団の設定
 - 合同授業（他学年・他学部・教師が生徒役も含む）
 - 相互評価場面の設定
 - 学び合いが生まれるような意図的・効果的な学習集団の設定
 - 児童生徒の実態に応じた役割分担
 - 活動の様子をビデオ撮影し、お互いのよさや課題に気付く場面の設定
 - 振り返り・感想シートの発表場面の設定
 - 発表や調べ学習などの学習設定
 - 教師の指導の質と量が必要以上にならないようにする。

メモ（アイデア等記入しておきましょう。）



評価の視点・方法

評価場面の検討
(いつ)

評価者の分担
(誰が)

評価方法の検討
(どのように)

例えば、

- 目標、学習活動、評価の関連を明確化
 - ・ 学習活動の終末場面（振り返りでの自己評価・相互評価）
 - ・ 確認テストや復習テスト
 - ・ 定期考查や実技テスト
 - ・ 学習活動全体
 - ・ 発表場面の設定
- 学習指導案等への評価場面の位置付け（いつ・誰が・どのように）
 - ・ 学習指導案に明記
 - ・ 授業終了日の放課後または次の授業までに評価シートの利用

例えば、

- 児童生徒による自己評価・相互評価
- 児童生徒ごとに評価者を分担
- 授業者全員
- 授業チーフによる評価担当の割り振り
- CTによる一斉評価（評価観点による）

例えば、

- 評価可能な評価規準及び基準の設定
 - ・ 定期テストや実技テスト
 - ・ 評価基準の設定
 - ・ 評価規準及び評価基準設定の話し合い
 - ・ 評価の視点の共有
- VTRの活用、行動観察
 - ・ 児童生徒の発言やつぶやき
 - ・ 授業の様子の撮影を基にした評価
- 評価シート等のツールの活用
 - ・ 児童生徒の実態に応じた評価シートの工夫（記述式、○△△）
 - ・ 段階別のチェックシート
- 観点別評価、自己評価、相互評価、感想
 - ・ 目標に沿った自己評価（児童生徒）

メモ（アイデア等記入しておきましょう。）



授業レベルの「Do」～基本的な考え方～

1 単位時間の授業の充実を図るために

(大切にしたいこと)

1 学ぶ必然性を感じ、興味・関心が高まる導入

学ぶ必然性

これまでの学習とのつながりや既知の内容の確認

まとめにつながるめあての提示（全体及び個人のめあて）

見通し

学習活動の流れや学習方法の提示

教材・教具の提示で学習への見通しと興味・関心を喚起

2 子供が主役となる学びの展開

子供が主役の学び

個に応じた学習活動の設定と充実

子供同士で学び合う学習活動の設定と充実

学びを支える

失敗やつまずきに対応する手立てと臨機応変な対応

自己選択・自己決定の場や機会の設定

3 学んだことを実感し、次の課題に向かうまとめ（終末）

学んだことを実感

個や学習集団に応じた発表や称賛の場面の設定

めあてと対応した多様な評価やまとめの設定

学んだことを蓄積できる手立ての工夫（学びの履歴づくり）

つながり

次の学習への見通しをもち期待感が高められる工夫

実生活や実践意欲に結び付く動機付けやまとめの工夫

授業全体を通じて、子供の学びを支えるために ～ 基本的な姿勢、留意事項～

安全面等への配慮

子供の主体的な活動を待つ姿勢

個に応じて、精選された言葉掛け

「学び」の過程、「思考」の過程が分かる板書の工夫

教員間の共通理解
・全体目標、個人目標と評価場面
・支援方法や内容、程度

言語活動の充実を図る工夫

ICT機器の特性を生かした利活用

「思考」を促す発問や言葉掛け

授業レベルの「Do」～基本的な考え方～<導入>（具体例）

1 学ぶ必然性を感じ、興味・関心が高まる導入

学ぶ必然性

これまでの学習とのつながりや既知の内容の確認

まとめにつながるめあての提示（全体及び個人のめあて）

例えば、

- 前時までの振り返りの工夫
 - ・ 前時までに用いた教材・教具（具体物）の提示
 - ・ 学習ファイルで前時までを振り返る活動
 - ・ 写真や映像といった視聴覚教材を活用
 - ・ ミニテスト
- 生活経験等を生かした身近に感じる課題設定
 - ・ 他単元・題材との関連付け
 - ・ 話題の出来事や季節の行事との関連付け
- 「できそう」と感じる課題設定の工夫
 - ・ 前時までに学習した教材・教具を発展させた教材・教具の準備
- 子供の実態に応じ、子供が理解できる提示の工夫
 - ・ 視覚化、動作化、具体物の操作など

例えば、

- 「〇〇をしよう」、「〇〇を頑張ろう」などではなく、問題解決的めあての設定
 - ・ 子供自身がめあてを設定するなどの工夫
 - ・ 前時までの学びを踏まえた子供の疑問に基づくめあての設定
 - ・ 予想とその理由まで考えためあての設定
- 子供が理解できるめあての提示
 - ・ 視覚的な手掛けり（写真等）、動作的な手掛けり（モデル）、具体物などの併用
- 全体のめあてと個人のめあての関連付け
 - ・ 個人のめあてを達成することにより全体のめあてを達成するなど、全体のめあてと個別のめあての関連付け、工夫
 - ・ 自他のめあてを共有する工夫（板書の工夫）

メモ（アイデア等記入しておきましょう。）

見通し

学習活動の流れや学習方法の提示

教材・教具の提示で学習への見通しと興味・関心を喚起

例えば、

- 授業終了時に「こんなことができるようになる」というイメージをもてる提示の工夫
 - ・ めあてと関連付けた本時のゴールの明確化
 - ・ 学習計画表の活用
- 教科等や単元・題材の特性に応じた学習の流れや方法のパターン化
- 子供の興味・関心を高め、理解を促すICT機器等の活用（ICT機器の特性を生かした活用）
 - ・ 大型提示装置を用いた学習の流れの提示
 - ・ 動画等を用いた学習方法の提示
- 時間的な見通しの工夫
 - ・ タイマー等を用いた時間的な見通しの提示
 - ・ 学習活動の切り替わりの際に音楽や音など子供が教師の言葉掛け以外の方法で判断できる工夫

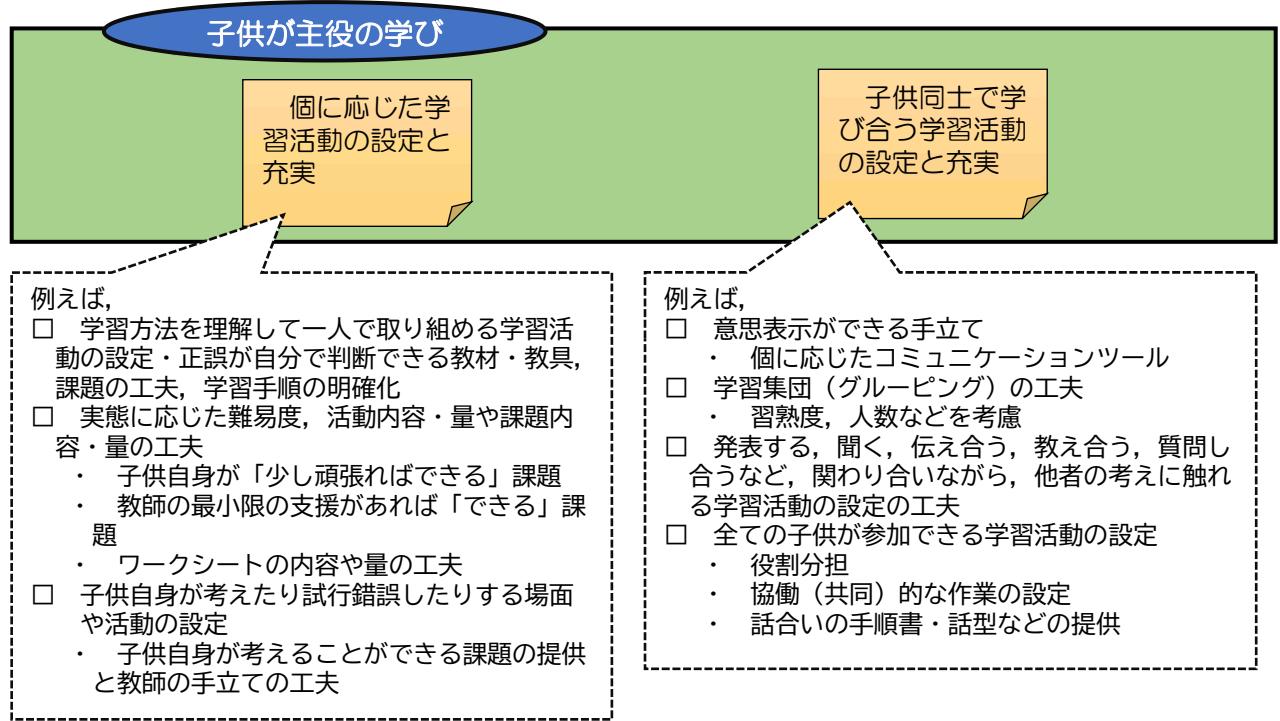
例えば、

- 五感を刺激する教材・教具の工夫
 - ・ 視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚を複数組み合わせた教材・教具の提示
 - ・ 子供の発達の段階に応じた操作性の高い教材・教具の工夫
- 具体物・写真・イラスト・映像など見て分かる教材・教具の工夫と提示の工夫
 - ・ 使い方について（教師や子供が）モデルを提示
 - ・ 写真やイラストとICT機器の併用など、それぞれの良さを生かした教材・教具の活用

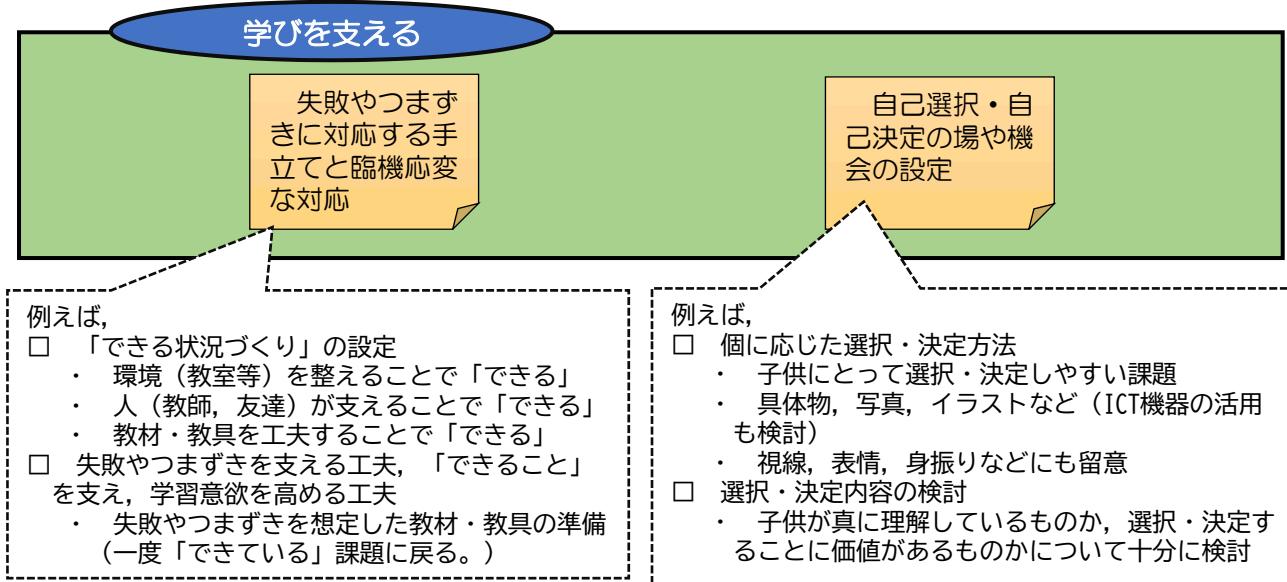
メモ（アイデア等記入しておきましょう。）

授業レベルの「Do」～基本的な考え方～＜展開＞（具体例）

2 子供が主役となる学びの展開



メモ（アイデア等記入しておきましょう。）



メモ（アイデア等記入しておきましょう。）

授業レベルの「Do」～基本的な考え方～＜終末＞（具体例）

3 学んだことを実感し、次の課題に向かうまとめ（終末）

学んだことを実感

個や学習集団に応じた発表や称賛の場面の設定

めあてと対応した多様な評価やまとめの設定

学んだことを蓄積できる手立ての工夫（学びの履歴づくり）

例えば、

- 発表機会・方法の工夫
 - ・ グループごとに学習したことを話し合う機会の設定
 - ・ ロールプレイによる発表
- 子供相互の称賛の場の設定
 - ・ 友達の良かったところ、頑張っていたことを発表する機会の設定

例えば、

- 本時で学んだことを写真や動画、実演等により視覚的に振り返る活動の設定
 - ・ 授業の始めと終わりの姿を動画や写真で記録し振り返るなど（ICT機器の活用）
- めあてに応じた自己評価や相互評価などの工夫
- めあてと子供の発言・活動等を関連付けた教師からの具体的な評価
- ポートフォリオ等を活用した学びの蓄積
 - ・ チェックシートやワークシートによる評価の蓄積・子供と教師との対話による評価

例えば、

- 学習ファイルを作成し、学びを可視化
 - ・ 写真を撮りファイリング
 - ・ ワークシートや日誌のファイリング
- 作成、制作（製作）したものを作成し、展示し、学習したことなどを日常的に確認、実感できる工夫

メモ（アイデア等記入しておきましょう。）

つながり

次時の学習への見通しをもち期待感が高められる工夫

実生活や実践意欲に結び付く動機付けやまとめの工夫

例えば、

- 学習計画表の工夫と提示
- 次時の学習内容に関わる手掛け（写真や具体物など）を示すことにより子供が「次に何を学ぶのか」を予想し、期待感を高めるなどの工夫

例えば、

- 本時の学びが「何につながっているか」についての見通し
 - ・ 他教科等との関連について説明、提示
 - ・ 教師の実体験やニュースなどの紹介
 - ・ 実際の活用場面を想定した学習活動の設定（授業後）
- 日々の学校生活の中で生かす工夫
 - ・ 朝の会、帰りの会など毎日繰り返される学習活動に、授業で学習したことを生かすことができる活動を設定するなどの工夫
- 家庭生活、地域生活で生かす工夫
 - ・ 連絡帳等で学習したことを具体的に伝え、家庭との連携を図りながら定着を促進

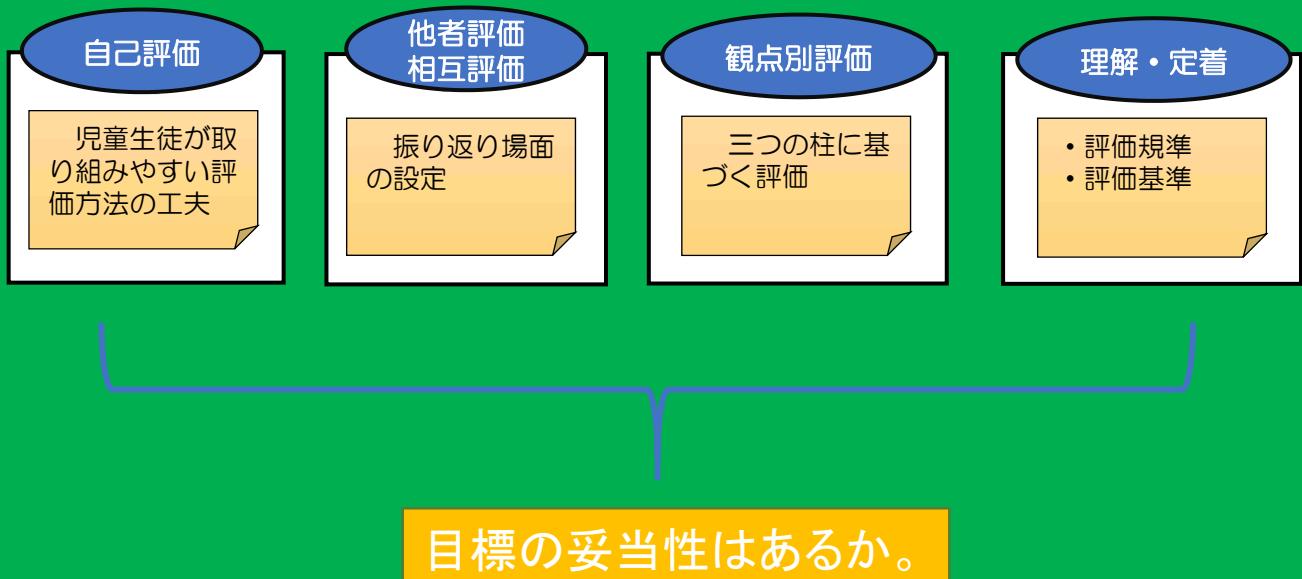
メモ（アイデア等記入しておきましょう。）

授業レベルの「Check」～基本的な考え方～

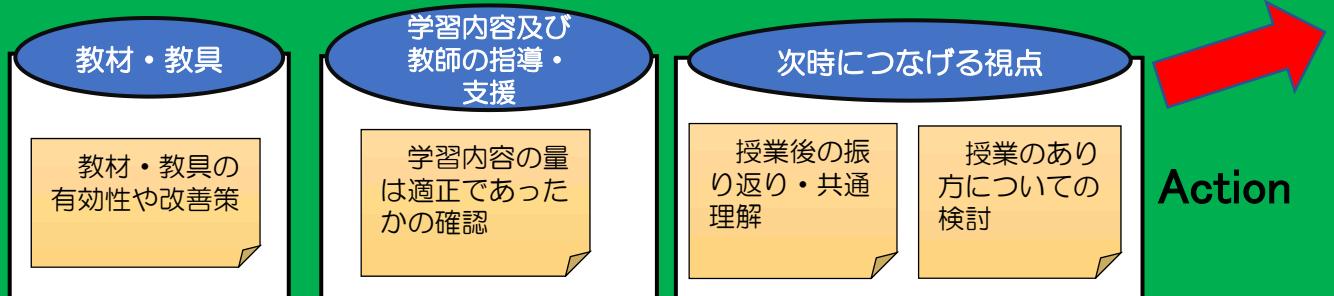
1 単位時間の授業の充実を図るために

(大切にしたいこと)

1 学びの姿から見つめる幼児児童生徒の学習評価



2 次時につなげる教師の指導・支援の評価



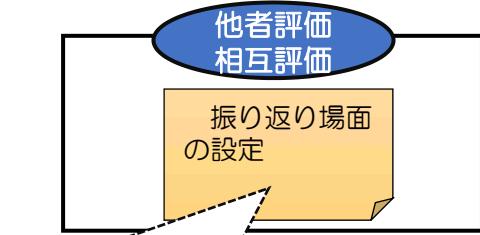
授業レベルの「Check」～基本的な考え方～ (具体例)

1 学びの姿から見つめる幼児児童生徒の学習評価



例えば、

- 児童生徒が理解しやすい評価場面の設定
（振り返りシート・「○○△」・記述式）
 - ・自己評価や感想を記入する時間の設定
 - ・場面ごとに振り返り時間の設定（即時評価）
- ワークシートを活用した自己評価
 - ・実態に応じた評価シートの工夫（○○△・記述式・二者択一・穴埋め式など）
 - ・ワークシートを蓄積してポートフォリオ的に活用
- 児童生徒との対話を通じた評価
 - ・動きなどの要求による評価、表情や目の動きの変化の確認
 - ・他者評価を取り入れた自己評価
- 発表場面や写真、動画による振り返り
 - ・ＩＣＴでの視覚的振り返り
 - ・言語化する時間の設定



例えば、

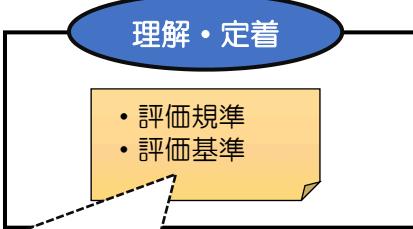
- 児童生徒との対話を通じた評価
 - ・振り返りを話合い形式にし、友達の様子や気持ちに触れる機会の設定
 - ・授業の最後にお互いのよかったところを伝え合う時間の設定
 - ・相互に質問し合う場面の設定
 - ・評価項目を設定
 - ・めあてや課題解決の方法の掲示を活用した振り返り
- 発表場面や写真、動画による振り返り
 - ・活動場面を写真や映像等で記録し、振り返る場面を設定
 - ・評価場面の写真や映像、再現による発表場面の設定

メモ(アイデア等記入しておきましょう。)



例えば、

- 知識及び技能
 - ・到達度評価
 - ・定期テストや単元テスト
- 思考力、判断力、表現力等
 - ・判断基準を用いた評価
- 学びに向かう力、人間性等
 - ・行動確認による評価
- 評価基準の設定
 - ・評価シート、振り返りシートの作成・活用
 - ・各目標に関する評価基準（目標を実現した具体的な姿の明記など）の検討



例えば、

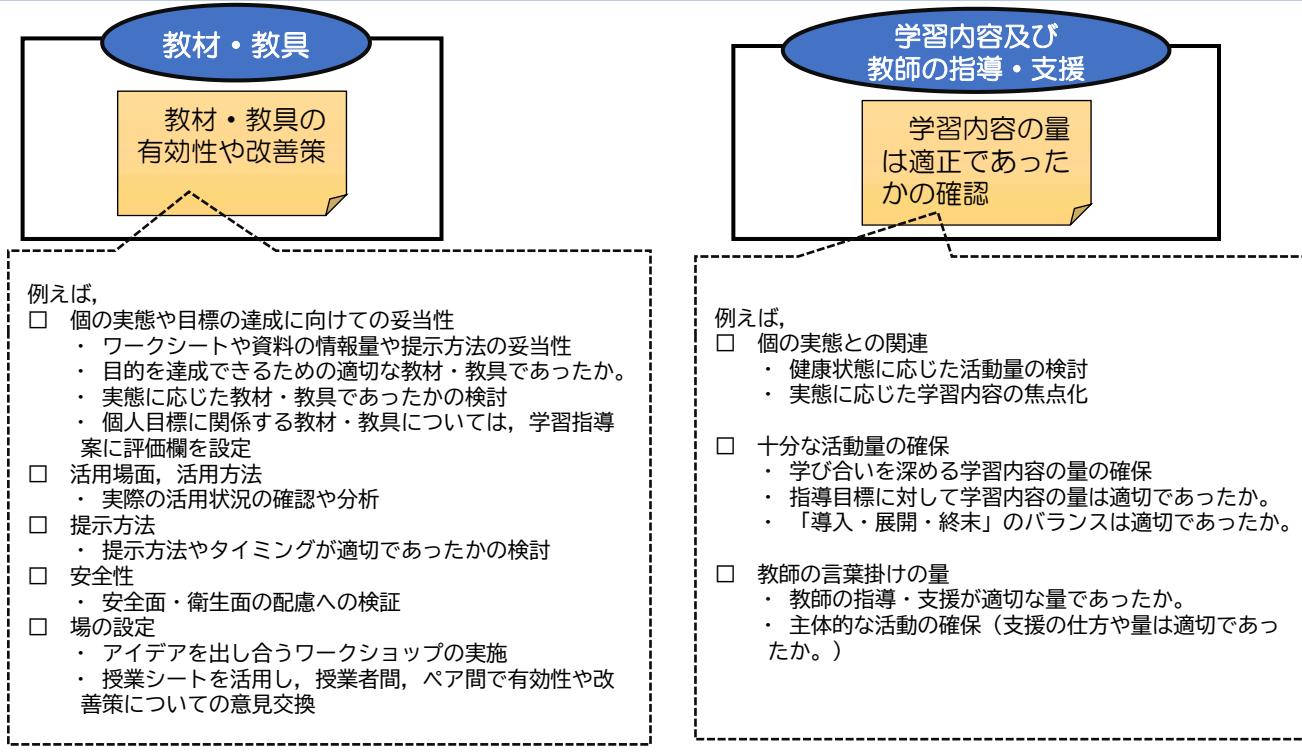
- ループリック評価
 - ・1単位時間ごとの評価の蓄積と単元・題材での一括した評価の実施
- 児童生徒による学習のまとめの発表
 - ・学習の成果をまとめ、ポスター等を用いた発表
 - ・調べ学習のメモや写真をまとめた掲示物の作成や発表
- 評価規準や評価基準の設定
 - ・学習指導要領に基づいて設定
 - ・他の学習や学校生活等の様子の観察

メモ(アイデア等記入しておきましょう。)

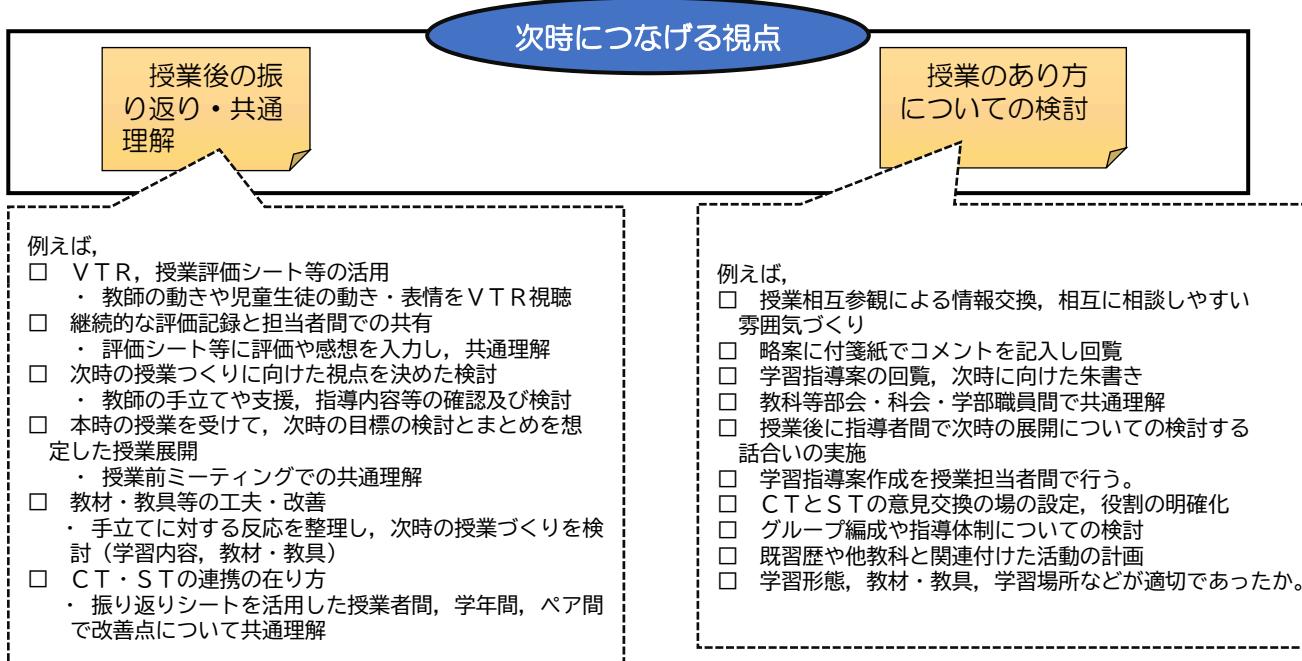
目標の妥当性はあるか。

授業レベルの「Check」～基本的な考え方～ (具体例)

2 次時につなげる教師の指導・支援の評価



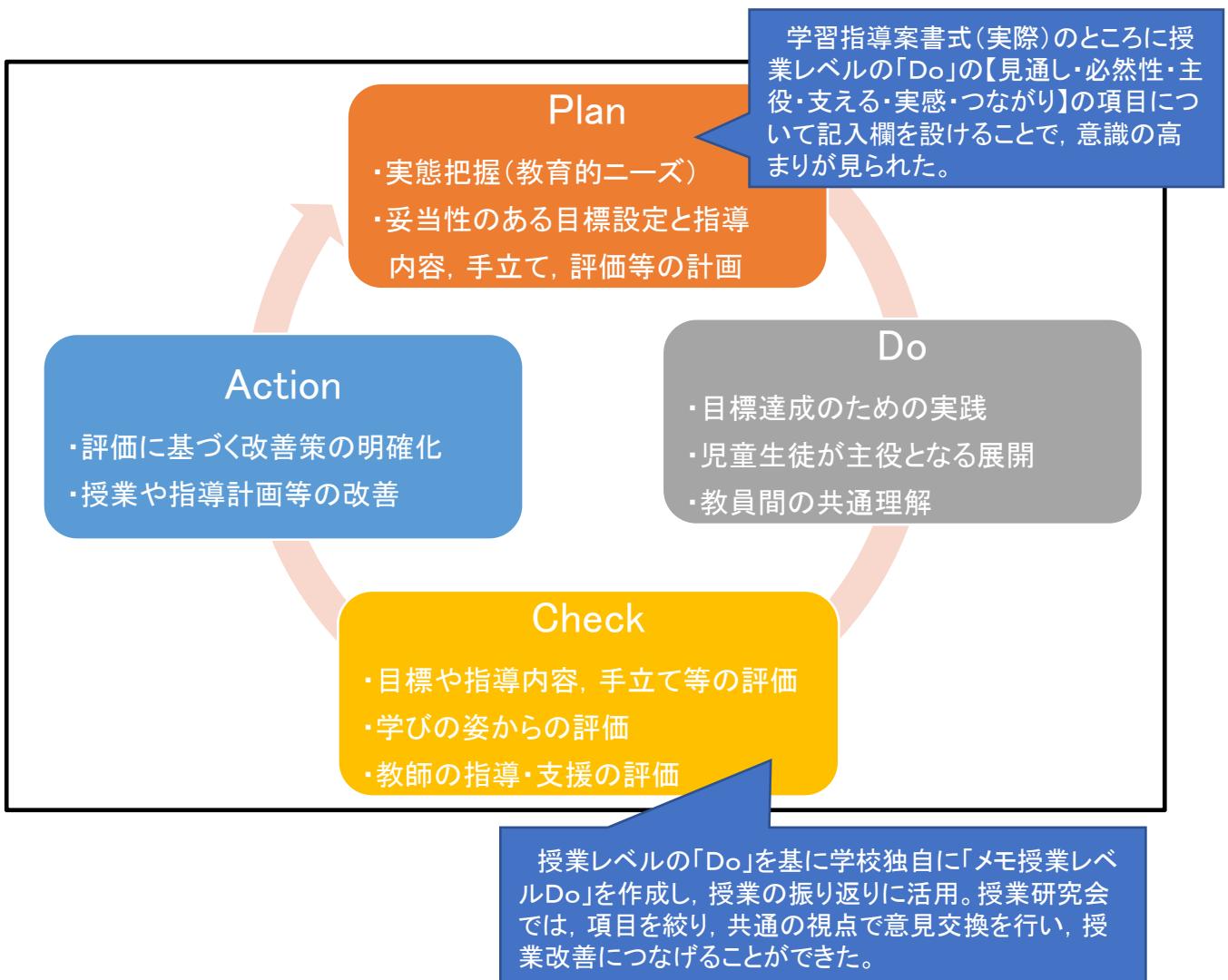
メモ(アイデア等記入しておきましょう。)



メモ(アイデア等記入しておきましょう。)

III 授業づくりの充実に向けて

○ 授業づくりのスタンダード「Do」の活用例



IV まとめ

特別支援教育における授業づくりは、障害種に応じた教育課程への対応、児童生徒一人一人の障害に応じた配慮など多岐にわたります。児童生徒が、学習に主体的に取り組みながら、達成感・充実感を実感しつつ、将来の自立と社会参加に向けて、必要な力を身に付けることができるような授業づくりとは、どうあるべきか、引き続き特別支援学校全体で取り組んでいきましょう。